

自民党 かながわ政大新聞

発行・編集

自由民主党かながわ政治大学校

運営委員会(第14期)

担当事務局:加藤剛

問い合わせ先:045-641-8723

kato@k-ldp.jp

2013.9.21/5号

第十四期特別セミナー開催

八月二十四、二十五日、特別セミナーが開催された。磯崎陽輔参議院議員と中谷元衆議院議員による基調講演、受講生主体のパネルディスカッションと討論会を行い、憲法改正について議論を深めた。

「討論を終えて 危険な運用解釈」

第十四期特別セミナーにて、私達の班は自民党改正草案について検討いたしました。

危うい権力者の暴走を憲法で抑止可能かという点で考えると、現憲法九条の解釈で軍の運用を可能とする方法も、自民党草案の文言の曖昧さもその暴走を止められない。世界各国の憲法を検討し、例示的・限定列挙でケースを示す方法もあるという結論に至りました。憲法の有るべき姿を再確認できた、充実した二日間を過ごせました。

古屋修(横浜市南区)

「我々こそが啓発者」

特別セミナーは、「憲法改正について考える」という中心テーマについて、吉田校長から「政大生こそが世に発信し議論の先頭に立ち啓発者になろう」というメッセージで始まりました。基調講演では、自民党草案を作成した中心的人物である、磯崎先生、中谷先生の貴重な講義を拝聴できました。

今期からの新たな取組みであったパネルディスカッションでは、小田切さん、洞田さん、持木さんが、各自が思う国家像を熱く語って下さいました。同じ受講生の仲間がパネリストとして、壇上でその想いを堂々と訴える姿に多くの受講生が刺激を受けたものと思います。討論会では、憲法九条を取り上げ、「我々政大生こそが啓発者になろう、九条改正に不安を覚える方へメッセージを発信しよう」と

【特別寄稿】 政大第十四期を振り返って

「二年間をふりかえり」

二〇一二年夏、かながわ政治大学校の門を叩いた。あの日の高揚と緊張は忘れもしない。新境地での高揚を胸にしまい、緊張の面接へ。胸を撫で下ろせたのは、合格通知が届いてからだ。その後、政大十四期生としての一年間がはじまった。広々とした会場での講義は集中できた。論文講座、PT講座、討論会の豊富な資料は勿論、今後の日程表など、県連職員の方々の行き届いた対応には、心より感謝いたします。あとは修了式を待ただけだ。関沢和仁(さいたま市北区)

いうテーマで議論し、その結論をリーダーが堂々と発表しました。

仲間の意見を聞き、自分の意見を発表する。このような機会は日常生活では大変少なく、貴重な経験でした。このような機会を作っていただいた関係の皆様には感謝すると共に、運営委員会の皆様、そして委員長の大木さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

福地茂(横浜市港北区)

「第十四期を振り返って」

平成二十四年九月に、かながわ政治大学校の第十四期が開講されて、はや一年。九月二十一日に修了式を迎えることとなった。改めて振り返えると、濃密な一年であった。

通常の講義の他、吉田校長、牧島教授、新堀教授、森久保教授による課外講座、国会や自民党本部の見学など、幅広い勉強と集中した研鑽が両立した内容であった。

また、「受講生により主体性を持つて企画運営を行うこと」を目的として設置された運営委員会では、海上自衛隊基地見学や特別セミナーの企画・運営、また政大新聞の発行など、政大の活性化の一翼を担うことができたと感じる。

更に、今期の政治大学校開校中、自民党は衆議院・参議院選挙に勝利を収め、新たな歴史の一ページを記した。微力ながら選挙のお手伝いができたこと、歴史に少しでも関われたことに感謝したい。

運営委員長 大木丈二

《特集》

参議院議員選挙運動参加報告

「当選！みんなの力で！」

「自民党 島村大 当選確定」、平成二十五年七月二十一日（日）二十時十三分、島村先生の選挙事務所内のテレビで当選確定が報じられると、駆け付けてきた方々の歓喜の声が響き渡った。事務所の中だけではなく入りきれない人も多く、その喜びの声は表現に難しいほどに大きく、そして皆様の喜びが一つになった瞬間であった。

私は今年の二月に島村先生とお会いすることができ、春から少しずつではあるが活動をお手伝いさせていただいた。選挙区が神奈川県全体であるので微力ではあるが横浜市内各地、川崎、横須賀、相模原、茅ヶ崎、小田原と同行をさせていただいた。初めのうちは街頭応援をしていて旗の立て方、チラシの配布、声の出し方等とてきぱきと動くことが難しく苦労すること多かった。しかし、島村先生が一番努力されている。活動の中で運動員をしている仲間たちもその思

いを連帯している。もちろん島村先生の当選が我々の第一の目的だがそれだけでなく自分たちのためであると確信しながら「よし！いくか！」という気持ちで一歩前に出ることができた。

今回の選挙は神奈川県選挙区でトップ当選、そして全国で最多の得票数を集めることができたことがほんのわずかながら貢献できたとともに島村先生のお人柄であることがとても嬉しく思えてくる。島村先生はこれからが正念場。我々は先生、かながわ自民党を応援しつつ自分自身の政治に対する意欲が高まったといえるだろう。

自民党かながわ政治大学十四期生の大半が政治家志望。今回の島村先生の応援を通していろんな人々と知り合えたこと、地域に触れあえたことは各々の夢への近道になったのではないか。この時点で政治家を目指す受講生の事実上の選挙活動はすでに始まっている。

福田健司（横浜市中区）

「選挙運動に参加して思ったこと」

七月二十一日に行われた参院選は、自民党の圧勝で閉幕した。この結果、衆参のねじれが解消し、新たな時代に入った。これからが与党自民党の正念場である。

選挙期間中の数日間、神奈川県連選出の島村大先生の選挙運動のお手伝いで、ビラ配りや立会演説会での誘導、新横浜駅前ではマイクを握つての応援演説までさせていた。また、二十日二十時直前のマイク置きや、開票発表のその感動の瞬間にも立ち会わせていただいた。ビラ配りの最初の頃、気恥ずかしさもあり、なぜこんなことをやっているんだとの思いもあった。しかし、毎回見かける島村事務所のスタッフや青年局の皆さんが、積極的に市民に語りかけ、ビラを配っている真剣な姿を見ているうち、私もどうすれば受取ってもらえるか考え、工夫するようになっていた。市民の方々の中には、励ましやお叱り、質問してくる方もおられ、選挙運動に関わっているんだと実感できる場面も多かった。

政大十四期生の何名かも参加されていた。しかし、もっと多くの政

大生が参加・協力すべきであったと思う。今期は、衆院選と参院選、重要な国政選挙が二回も行われた。議員を目指している政大生が、このような重要な機会に現場に向かないというのでは、何のための政大か分らないのではないか。

貴重な経験をさせていただき大変感謝しています。島村先生のご当選と自民党圧勝に、微力ながらもお役に立てたのであれば幸いです。高尾俊明（横浜市金沢区）



編集後記

二〇二〇年東京オリンピックが決まりました。感動の瞬間を見ながら編集した今回の記事は大作が多く、文字ばかりになってしまいました。（高尾）